



「うんち」がくさいのはどうして

くさいにおいのもとは大腸の中で

口に入った食べ物は、歯でかみくだかれ、胃で細かくされて消化され、小腸で栄養が吸収され、大腸で水分が吸収されて、残ったかすが、うんちとして体外へ出されます。うんちのくさいにおいのもとは、この大腸の中で生まれます。

くさいにおいをつくるのはバクテリア

大腸の中には、バクテリアという、とても小さな生き物がいます。このバクテリアの食べ物、小腸で栄養を吸収され、大腸へ送られてきた食べ物の残りかすなのです。

バクテリアたちは、消化酵素という薬のようなものを使って、食べ物の残りかすを分解し、それを栄養にしてふえていくのです。

バクテリアたちが、食べ物の残りかすを分解するとき、くさいにおいのもとが生まれます。インドール、スカトール、メルカプタンというガスができるのです。

このガスが、うんちに混じって出てくるため、うんちはくさいのです。

(監修・保志 宏)

